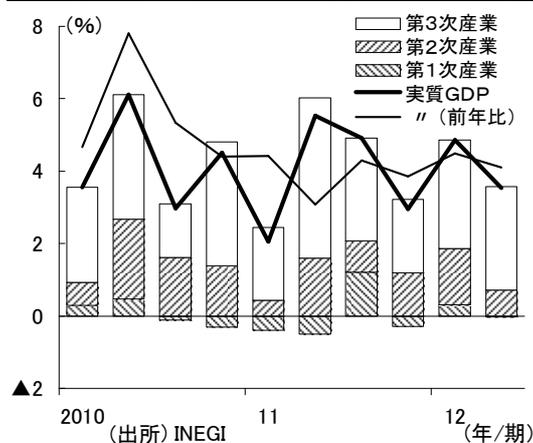


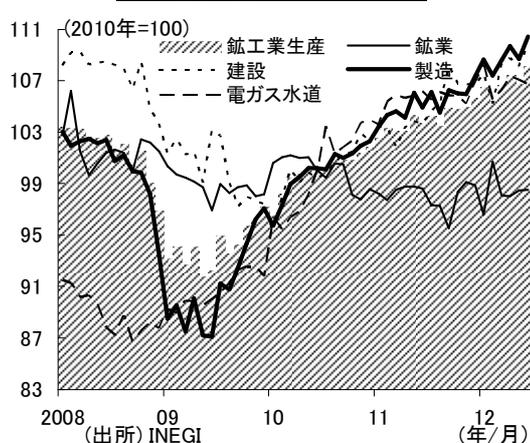
底堅いメキシコ経済 ～ 進む生産拠点化 ～

- (1) 4～6月期、メキシコの実質経済成長率が鈍化（図表1）。前期の1～3月期と対比すると前年比では4.5%から4.1%、前期比年率では4.9%から3.6%へ。前期比年率成長率に対する産業別寄与度をみると、第三次産業は+3.0%から+2.9%と増勢を維持したものの、第一次産業は+0.3%から早魘の影響で▲0.03%とマイナスに。第二次産業では+1.6%から+0.7%へ寄与度が半減。一部に先行き懸念の見方も。
- (2) まず早魘影響は米国近隣エリアに限られ中部以南では影響軽微。今後、深刻な成長制約に作用する懸念小。一方、好調な第三次産業は、業種別にみると、所得・雇用環境の改善を映じた消費拡大の追い風を受けた商業や、工場や倉庫、オフィス需要が盛り上がる不動産業が牽引役。そうした現下の景気拡大は輸出を起点とした生産・投資増の拡大メカニズム。4～6月期、第二次産業の鈍化には前期1～3月期が閏年で季節調整値が高上げされた反動も。
- (3) 鉱工業生産をみると、昨年央の横這いから年末以降、再び増勢回復（図表2）。主因は製造業と建設業。かつて同国経済を牽引した鉱業はむしろ後退色を強める一方、電力ガス水道の公益業は昨年来の一進一退。工業生産を業種別にみると、輸送用機械が際立ってハイペースの増勢持続（図表3）。10年対比では3割増。次いで一般機械や金属製品、繊維や基礎金属。昨年比では印刷や繊維が増えたものの10年比ではマイナス。増産業種は総じて裾野が広い輸送用機械の関連業種。
- (4) 貿易では工業製品輸出が10年半ば以降の好調持続（図表4）。11年半ばや今春の減少はペソ安でドル建て金額が目減り。実質ベースで増勢に変化なし。中国など新興国コストの上昇で同国が再評価。米国や中南米向け輸出の生産拠点化が進行するなか、今後も底堅い成長持続の公算大。

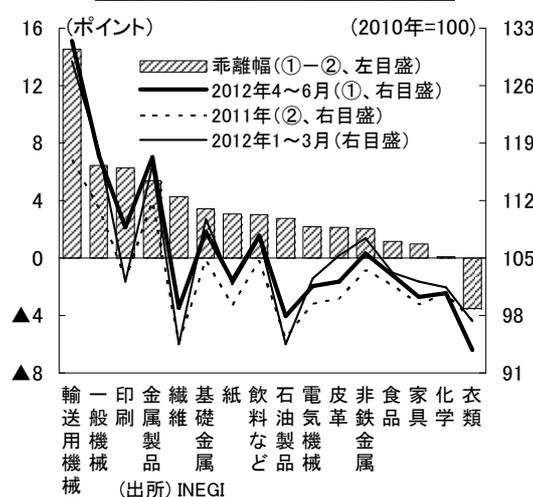
（図表1）メキシコの実質成長率（季調済前期比年率）



（図表2）鉱工業生産（季調済）



（図表3）業種別工業生産（季調済）



（図表4）輸出入金額と貿易収支（季調済）

